

# みどりの ニュースレター

21世紀 地球を、地域を、生活を、  
持続可能な豊かさに

**3**  
2006  
No.154

連続講座「京都自然めぐり 子どもと遊べる大人になろう」プロジェクトをふりかえる

## 特集：自然の中で子どもと遊べる 大人を増やす、そのおもしろさと意義の深さ

バームクーヘン作成中。  
上手に焼けるかなー？



### 第3回

お父さんのための夏休み  
直前キャンプ講座

### 第6回

子どもに自然のすばらし  
さをいかに語るか



シンプルで奥深い  
積み木の世界へようこそ！  
大人も熱中！

### 第8回

とびっきりのおもちゃ屋さ  
んに聞く 遊びと子どもの  
成長の関係



特定非営利活動法人

**環境市民**

Citizens Environmental Foundation - since 1992 -  
<http://www.kankyoshimin.org>

¥100

# みどりの ニュースレター



No.154

2006年 3月号

Citizens Environmental Foundation



今月の表紙……

講座「京都自然めぐり」で行われたエコロジカルでシンプル、そして楽しい！遊びの数々。

**コレため!** コレ、ためしてみました。

毎月エコロジカルなライフスタイル・グッズをスタッフが体をはって実践レポートします！



コレため! File no.9

## 子縁とまちあるき 子どもに連れられてまちへ出よう

文/環境市民 会員  
パートナーシップ活動部員  
「京都自然めぐり」※第5回 講師 永橋 為介

私の住む宝塚は実は田舎だ。旧住民と新住民が混住する一角に私は4歳半の娘とその母親と「第二種兼業主夫」として4年前から住み、ほぼ毎日娘の保育所への送り迎えをしている。家の周りは、六甲山系と長尾山系に挟まれ高低差が激しく、区画整理もされていない高台ゆえ、曲がりくねった細い道や坂、階段が多い。雑木林や社寺林、ため池、田んぼが残っており、家々の庭にも季節感が感じられる。「まちあるき」をするにはいい場所なのだが「いまさら改まって娘とまちあるきもなあ」という気持ちがあった。何か日常とはかけ離れた感じがするからだ。共働き育児の日常は毎日が戦場だから。そんなことをぼやきながら保育所から帰る時、娘は家路とは違う道を行きたがり、家と家との間の細い道、細い道を突き進む。「おい～、夕飯作るの遅くなるって」と小言を言いかけたら、突然、宝塚大劇場と六甲山系の大パノラマが開けた。4年間いて初めて目にする光景だ。瞬間、窓が開き、家主の厳しい視線。娘を肩車する。家主の目がゆるむ。娘に連れられて新しい光景に出会い、そして助けられた。

計画策定や講座で行う「念入りな下見と準備を経て、さらに面白くなって良いところ探しをするまちあるき」とは対極にある「無為自然のまちあるき」。その時、私は娘と「まちあるき」をしているという意識はなかった。でも今は「娘が私を連れてまちを歩き、娘が私をまちに対してお披露目してくれていた」「毎日の保育所の送り迎えですらそれはまちあるき」と思っている。娘のおかげで、まちと付き合えている。そう気づけたことに私は感謝する。

※環境市民のこもれび倶楽部が企画運営した連続講座「京都自然めぐり 子どもと遊べる大人になろう」。詳しくは本号特集をご覧ください。

## CONTENTS

### コレため!

子縁とまちあるき 子どもに連れられてまちへ出よう  
…02

連続講座「京都自然めぐり 子どもと遊べる大人になろう」  
プロジェクトをふりかえる

特集：自然の中で子どもと遊べる大人を  
増やす、そのおもしろさと意義の深さ  
…03-07

とれたて! 環境市民 スペシャル! …08-09

イベントカレンダー  
旬のぶちメモ  
講演のご案内

みんなでエコろう! 行事案内…10-11

地球のなかま…12

第9回 コウノトリとともに暮らすまちづくり (豊岡の挑戦)  
前編 ヨーロッパのコウノトリ、日本のコウノトリ

隔月コラム 青き星 碧い風…13  
第五回 地球の造形

みんな集まれ! わいわいひろば…14

3月のテーマ: 子どもの遊びと環境

1/ 環境市民…15

岩城 敏之さん

今月のありがとう…16

新入会員インタビュー・新入会員・寄付他

### 速報!

環境goo大賞2005 NPO/NGO部門で

**環境goo大賞受賞!**

詳しくは次号!

**特集：自然の中で子どもと遊べる大人を増やす、  
そのおもしろさと意義の深さ**

(文／環境市民 事務局長 堀 孝弘)

**環**境市民には5つのミッション(活動目的)があり、その1つに「エコロジーな次世代を育む」があります。<sup>※1</sup>

このミッションを実現するプロジェクトとして、2005年度、環境市民・こもれび倶楽部<sup>※2</sup>は「連続講座・自然を通じて子どもと遊べる大人になろう」を、京都市環境保全活動センター(以下、京エコロジーセンター)と共催で実施しました。

※1 そのサブミッションとして「子どもを取り巻く環境をエコ化する」があります。

※2 環境市民の活動グループのひとつ。

**【どのような講座か】**

野外遊びや、昆虫・植物・鳥類などの専門家、子育てに造詣の深いおもちゃ屋さんらを講師に、京都周辺の自然をめぐるとともに、子どもとの遊び技や自然への関心を引き出すためのヒントを得て、お金やエネルギーを使わなくても、公園や野原で子どもと何時間でも遊べる大人を育成する講座です。対象は大人(高校生以上)で、「自然の遊び技を楽しく修得したい人」「子どもをめぐる環境問題に関心のある人」「子ども遊びリーダーをめざす人」などを想定しました(一部、親子参加OKの回を設定)。

目的として、

- ・親子の接点拡大 親の子育てにおける創意工夫能力を高める
  - ・遊びのエコ化、レジャーのエコ化に(少しでも)寄与
  - ・子ども遊びリーダー層を継続的に育成
  - ・将来のエコロジーライフ実践者層の育成
- などがあります。

**【この講座が生まれた背景】**

「最近の子どもは、外で遊ばなくなった」「遊びと言えばテレビゲームばかり」、よく聞く言葉ですが、嘆くだけでは仕方ありません。大人の責任もかなりあります。子どもが外で安全に遊べない社会をつくったのは大人ですが、それだけでなく、子どもと関わる力が弱くなった大人も多くなったのではないのでしょうか。たとえば、「休日となれば、郊外のショッピングセンター

で1日過ごす」「自然体験と言えば、もっぱらオートキャンプ場に行くばかり」、そんな「親子の休日」が増えています。多くのお金が必要なうえ、エネルギーも多く使い、ごみも多く出します。また、幼児期に歪んだ自然観を与えかねません。

もし、日々エコライフを心掛けても、休日のレジャーのあり方次第で、その努力は簡単に吹き飛んでしまいます。「子どもを外で遊ばせ、自然に親しませるには、大人だってがんばらなきゃ」、そんな思いでこの講座が生まれました。

**【講座コンセプト誕生のきっかけ】**

2004年秋、こもれび倶楽部は京都周辺の素晴らしい自然を、環境市民に集う野外活動や昆虫・植物・鳥類などの専門家(理事、専門アドバイザー)らとめぐる連続イベントの企画をすすめていました。ただ、企画会議で「これだけではコンセプトが弱い」という意見も出ていました。

ちょうどその頃、明石市の依頼で市民向け講座を環境市民が企画実施し、そこに京都府宇治市のおもちゃ店「キッズいわき・ぱふ」の代表・岩城敏之さんを招き、講演をしてもらいました。こもれび倶楽部メンバーのひとり堀(環境市民・事務局長)は、その時の話からとてもショックを受けました。「テレビゲームに熱中している時の子どもの脳は、は虫類と同じ。情操をつかさどる前頭前野がほとんど動いていなくて、小脳だけが機能している」「孫ができた時、してやれる遊びは自分が子どもの時にしていた遊び」などでした。

岩城さんの話を聞いて、堀は背筋に寒気を感じました。自身が子どもの頃していた遊びなど、すっかり忘れていました。子育てでは、野球や山登りなど体を張って遊んできましたが、「年を重ねて、もし孫ができた時、遊べる力がないかも」、「結局、おもちゃやゲームを買い与えるだけのおじいちゃんになってしまうのでは」という思いが湧いてきました。

それで、企画中の連続イベントに、「自然の中で子どもと遊べる大人を育てる」というコンセプトを盛り込むことを思いつき、こもれび倶楽部のメンバーに提案し、誕生したのが「連続講座・京都自然めぐり 自然を通じて子どもと遊べる大人になろう」です。

子どもとエコロジカルに遊ぶヒント盛りたくさん!

# 京都自然めぐりからはじまる 子どもと大人の 遊び改革



子どもと大人の遊びをエコロジカルなものに変えたい、そんな思いが詰まったこの講座は、誰もがすぐに家のまわりでできる遊びのヒントにあふれています。子どもと大人の遊び方を変えていくことは、大人のライフスタイルや価値観をエコロジカルに変えていくことにもつながっています。ここでは講座で投げかけられた、遊びを変えるための選りすぐりのヒントを紹介します。

文/まとめ ニュースレター編集部 有川 真理子  
取材協力/上村 洋平、須波 敏之、下村 委津子、世良 佑樹、  
長屋 博久、森坂 妃呂美 (敬称略)

## \*第1回\* 草っぱらで一日過ごす

テーマ通り、講師の西村さんが紹介するネイチャーゲームに参加した大人は気がつけば童心にかえっていました。京都御苑の特に何も無い草っぱらでほぼ1日を過ごせたことにびっくりした人も。特別な遊びものがなくても遊べるということを早速体感しました。



↑土の上に座るの何年ぶりだらー

テーマ: 自然の中で子どもと遊ぶ楽しさ、子どもの頃の感動を呼び覚ます  
講師: 西村 仁志さん (環境共育事務所カラース主宰・代表/環境市民理事)  
と き: 2005年5月28日 (土) 午前10:00から午後4:00  
場 所: 京都御苑 母と子の森付近

## ゆってみひう①「〇〇なものさがし」

お家のまわりの公園やお庭でできるゲームです。まずは、「がさがさ」「つるつる」「ちくちく」といったテーマを決めます。次に、葉っぱでも石でも、その辺にあるものなら何でもいのでテーマにあったものを見つけます。ある程度時間になったらお互いに集めたものを見比べてみましょう。第1回では、グループで集めたものなかからベストオブ『がさがさ』を決め、グループ同士で発表し合いました。中には「見た目ががさがさ」なんていうユニークな視点で選ばれたものも。みなさんもぜひお家のまわりでやってみてください。思わぬ発見があるかもしれませんよ。

## \*第2回\* 袋の中は……

まず初めに、中に自然のものや人工の何かを入れた袋を用意。中身を見ずに手の感触だけで「袋の中のもの何か」をあてるというゲームをしました。思わずみんな真剣に。その他、板倉先生のリードでいくつものネイチャーゲームを行いました。(この日は天候が悪かったため写真がありません)

テーマ: ネイチャーゲームで子どもと遊べる技を身につける  
講師: 板倉 豊さん (京都精華大学人文学部助教授/  
京都自然教室主宰/環境市民 理事)  
と き: 2005年6月4日 (土) 午前10:00から午後4:00  
場 所: 京都市左京区 下鴨神社 礼の森

## \*第3回\* キャンプ用品はたくさんなくても大丈夫



↑焚き火を囲んで皆さん真剣

飯ごう炊飯やホイル焼き、バームクーヘンづくりといった野外料理を経験した後、簡単に結べて緩みにくいロープの結び方を学ぶロープワーク、ロープとビニルシートだけでつくれる屋根「タープ」づくりをやってみました。キャンプ用品といえば山ほどあってお金がかかる、と思っている方も多いかもしれません。でも、本当は最低限の用品さえあればお金をかけずに大自然を楽しめますし、限られたものの中で工夫することこそキャンプの醍醐味。そんなことに気づかされた講座でした。

テーマ: 自然を生かしたシンプルなキャンプの基礎技術を学ぶ  
講師: 常住 良保さん (自然保護協会自然観察指導員) 余部 衛さん (環境市民こもれび倶楽部)  
と き: 2005年7月16日(土) 午前10:00から午後4:00  
場 所: 京都西山環境市民こもれび小屋

## \*第4回\* セミの抜け殻におおはしゃぎ!



↑セミの抜け殻集めに熱中!

夏まっさかりに行われたこの日は全10回のなかで唯一子どもが参加できるスペシャル講座でした。特にこの講座は、環境市民の環境共育チームSKIPとの協同企画で、「むしむし探偵手帳」を手に子どもたちは夏の虫や水生昆虫探しをしました。また、講座のはじまりに、セミの抜け殻探しをやったところ子どもが大喜び! 子どもは「動くものに関心を持つ」とは限らないんですね。

テーマ: 昆虫観察のレッスン 虫はどんなところにくらしているのか?  
講師: 塚本 瑠一さん (前平安女学院大学教授/環境市民代表理事)  
と き: 2005年8月6日 (土) 午前10:00から午後4:00  
場 所: 京都御苑トンボ池 付近



## \*第5回\*

## 最近なくなったサンマって何?

まずは子どもの頃の思い出の場所を絵に書いて、子どもの頃を思い出したところで京都のまちをじっくり歩きました。日頃は目につかないブロック塀が面白そうに見えたり、低い位置にある穴に気づいたり。いつもと違って見えたひとときでした。講師の永橋さんから「最近は『三の間』、つまり、すき間、暇、仲間が減った」というお話がありました。毎日の暮らしをちょっとふりかえるキーワードになりそうです。



↑感じたことを話します

テーマ：子どもの目線でみるまち探検・五感を使ってまちを歩こう  
 講師：永橋 為介さん (NPO法人コミュニティーデザインセンター副代表)  
 下村 委津子さん (フリーランスアナウンサー/環境市民理事)  
 と き：2005年9月10日 (土) 午前10:00から午後4:00  
 場 所：京都市中京区 烏丸九太町界隈

## やってみよう② 「まちあるき」

第5回講師の下村さんに「まちあるき」について聞きました。「まちあるき」にこれといったやり方というものはありません。あるとすれば、歩くときにただ目的地をめざすのではなく、意識をしてまちを観る、そのまちに暮らしている人と積極的にかわかることでしょか。家々の前においてある植木鉢、お店の看板、アスファルトのわずかな隙間から顔を見せている植物……。ちょっと注意してみるだけでも見えてくるものがあります。お店の人などに声をかけてみれば、新たな発見が必ずやあるでしょう。こうしたことがまちへの関心を高めることにつながります。

「愛情の反対は無関心」。関心を持つことは、まちに愛着を持ち、まちを育てていく基盤となります。子どもとまちあるきをすれば、大人が気づきにくい視点に気づかされたり、将来、まちをつくっていく世代を育てていくことにもつながります。まずは、気軽にみなさんの住んでいるまちを歩いてみませんか。

## やってみよう③ 「葉っぱのじゃんけん」

まずは各人でいろんな種類の葉っぱを集めます。大きいもの小さいもの、色の違うものなどなど。次に、勝負の分け目となるポイントを決めます。例えば「大きいもの」。この場合、自分の集めた葉っぱの中で一番大きいものを相手に出してください。見比べて大きい葉っぱを持っている方が勝ちです。「やわらかいもの」「黄色いもの」「虫食い穴の多い方」などテーマを変えればかなり遊べます。「葉っぱでこんなに遊べるとは思わなかった」という参加者の声がその楽しさの証拠です。

## \*第6回\* 子どもに自然を伝えたい

子どもに実際に自然のことを伝えるという設定で、グループワークをしました。「難しいなあ」といいながらも、子どものことを考え伝えようとする気持ちが高まったことが大きな収穫になりました。



↑深泥池で水生昆虫について学ぶ

テーマ：子どもに自然のすばらしさをいかに語るか  
 講師：片山 雅男さん (夙川学院短期大学助教授/NPO法人環境市民理事)  
 と き：2005年10月16日 (日) 午前10:00から午後4:00  
 場 所：京都市北区 深泥池周辺

## \*第7回\* 身近な自然素材で芸術家気分

秋も深まったこの日。京都市左京区の大字山を講師の久山さんから森の動物や植物の話の聞きながら歩きました。最後は、芸術の秋にちなんで、歩きながら集めたまつぼっくりや色とりどりの葉っぱなどで壁掛けづくり。「葉っぱやひろった枝でこんなに真剣になれるなんて」。あらためて身近な自然素材の楽しさに気づきました。



↑みんな真剣。

テーマ：身近な森で自然の不思議発見・芸術家気分で作  
 講師：久山 喜久雄さん (フィールドソサイエティ代表)  
 と き：2005年11月6日 (日) 午前10:00から午後4:00  
 場 所：京都市左京区 大字山

## \*第8回\* 子どもと遊びの関係



←積み木の奥深さを知る。

本号の「1/環境市民 (15P)」でもインタビューしている岩城さんが講師。おもちゃや遊び、子どもの成長との関係、親とのつながりについてなどを語っていただきました。ゲームによって、は虫類のように単純な判断しかできなくなるゲームの話やテレビを見続けることの弊害など改めて現在の子どもの遊びについて考えることしきり。とはいえ、ゲームを一切否定するわけではなく「親の遊ばせ方が重要。ゲームは時間を区切るなど、大人がきちんと関わって子どもと接していくこと」が、まずは大切と語っていました。

テーマ：とびっきりのおもちゃ屋さんから聞く遊びと子供の成長の関係  
 講師：岩城 敏之さん (キッズいわきばふ代表)  
 と き：2005年11月27日 (日) 午後1:30から午後4:00  
 場 所：京都府宇治市 宇治橋商店街キッズいわきばふ

## \*第9回\* 鳥は鳥でも……

鴨川沿いを講師の西台さんとバードウォッチング。あらかじめ用意された鳥の写真と見比べたりしながら歩くうちに、身近な鳥を見分けられるようになりました。「今まではみんな一様に鳥としか言えなかったのに明日からは『コサギ』が飛んでる、と名前と呼べます」という感想も。ちょっと鳥のことを知っただけでも自然を見る目が広がります。



↑あの鳥は何?

テーマ：子供といっしょにバードウォッチング  
 講師：西台 律子さん (日本鳥類保護連盟会員/日本鳥学会員)  
 と き：2006年2月4日 (土) 午後1:00から午後4:00  
 場 所：京都鴨川三条大橋～出町柳周辺

第10回は3月12日(日)。  
 全10回を振り返ります。  
 (詳しくはP10)

### 「子どもと一緒に感じて、学ぶ」がキーワード

聞き手/まとめ ニュースレター編集部 有川 真理子  
取材協力/こもれび倶楽部 須波 敏之

今回の講座に参加した方に感想を聞きました。



↑ロープの上を綱渡り中  
(第3回講座にて)

#### ●インタビューした方

##### 江川 真理子さん……

仕事をしながらも土日は精力的に環境ボランティアをやったり、講座に参加したりしている。「週末に家でごろごろしていてももったいないですよー」。



##### 秋本 直美さん……

4月からはお仕事が始まる学生さん。残り少ない大学生生活に、せっせと環境関係の講座に行って勉強中。

●最初にこの講座の案内を知った時の印象はどうでしたか。また、実際参加した印象はいかがですか？

江川さん：「こういうのは今までになかった！」と思って参加しました。この講座は、参加者が受け身でなく、講師も一緒になって一大人として互いに学び合いながらすすめていく、というところがいいですね。実際、参加をされていて居心地がいいです。

第8回の岩城さんのお話は印象に残りました。ゲーム脳の話などは、人付き合いが苦手になるなど、大人にも影響することを知りました。アニメが、おもちゃを売るためにシナリオが変えられることもあるという話にはもうびっくりでした。

秋本さん：チラシを見て「これは行かなきゃ！」と思いました。ワークショップがたくさんあるので一方的でなく、自分で考えて意見を出す機会があっいいですね。参加者同士が意見を交換し合う場もあるのでいろんな視点を学べます。

実際、第1回の講座では、草だけであんなに遊べるんだ！と驚きましたし、子どもの視点ってこんななんやーと気づく機会もありました。

●今後、今回の講座をどのように活かしていきたいと思っていますか。

江川さん：母親になったときのことを考えると、自分が子どもだったときの環境とは変わっていると思うのですが、どうやって遊んだらいいかと悩む前にまずは外に連れ出して遊びたいですね。(おもちゃやゲームについても)「これはダメ」ではなく「こっちがいいよ」と示せるようになりたいですね。今回の講座に参加して、「こっちがいいよ」と言える身近な遊び方やおもちゃの与え方のヒントをたくさん得ることができました。

秋本さん：私も、子どもに対して感じたことを伝えたり、知識を教えるだけではなく一緒に感じて、学んでいきたいですね。また、おもちゃで遊んでいるところを取り上げるのではなく、葉っぱなど身近なもので遊ぶ方法を「こっちもおもしろいよ」と提案していきたいですね。

●お話をうかがっていた時、お二人から、「子どもだけではなく、大人にも環境のことを伝えていく際にヒントとなるようなことを学んだ」という意見もありました。

江川さん：子どもに限らず大人にも(環境のことを)伝えていけたらいいなあと思っています。それも押し付けるのではなく「こっちの方がいいよ」というきっかけがつかればいいなあと思っています。人は人に影響されて変わっていくと思うので、今回の講座で得た、「一緒に感じて学ぶ」スタイルでまわりの人にも環境のことを自然に伝えていけたらと思います。

秋本さん：私も同感です。大人に対しても、環境のことを伝えていくときに、知識や価値観を押し付けるのではなく「こっちもあるよ」と提案していけたらいいなあと思っています。例えば、私はマイハサー(自分のお箸を持ち歩く人)ですが、持ち歩いていたら友だちがマイハサーになりました。かっいいい!と思ったらしいです。環境問題は一部の人だけがやるのではなく、多くの人に取り組むことが大切だと思うので子どもに限らず大人にも伝えていけたらと思います。

●子どもと大人と一緒に学んで感じることの大切さ。これは大人に環境のことを伝えていくときにも大切になってくることなのかもしれません。

# これからも楽しく意義のある活動を

文／環境市民事務局長 堀 孝弘

## 【この講座の三年先までの目標】

さて、この講座は、一年目の目標として、「(1) それぞれの講師のもつポテンシャルを引き出す」「(2) 運営スタッフ、全体コーディネーターとの協力体制を確立する」を掲げていました。二年目は、より精査した内容にすること、三年日以降で、「自然の中で子どもと遊べる大人を育てるためのガイドブック」等、成果物の作成を掲げています。これらを通じて、ひとつの活動モデルを他地域にも提供したいと考えています。

## 【一年目の目標はどうだったかな】

2005年度目標のうち、(1)については、ほぼ達成されたと思います。(2)については、各回、全体コーディネーターや担当者が創意工夫して実現し、一定の企画・運営ノウハウを残せましたし、参加スタッフもそれぞれ得たものがあったと思います。また、連続参加してくれた参加者からも、かなりよい反応が返っています。

ただ、10回という実施回数はスタッフの負担も大きく、次年度にむけて、改善すべき点は多々出てきました。また、就職その他で、次年度以降参加できないスタッフもいて、新規メンバーの募集も必要になっていきます。

## 【2006年度にむけて課題はいっぱい】

この「連続講座・自然を通じて子どもと遊べる大人になろう」は、京エコロジーセンター主催で、環境市民が企画・運営している「環境教育リーダー養成講座」のフォローアップ講座としての位置づけもありました。ただ、2005年度はあまりその機能を果たせませんでしたし、重複した内容もありました。2006年度、両講座の相互補完性を高めることも課題のひとつです。

新規スタッフの募集も課題です。これは2005年度受講者の中から数人は出てくれそうですし、「環境教育リーダー養成講座」受講者からの参加も期待しています。

## 【2006年度前半は、野外学習会などでぼちぼち】

もうひとつ大きな課題として、内容の練り直しがあります。毎年10回も実施する必要はなく、絞り込む必

要があります。また、新規スタッフが入れば、スタッフ間の交流やポテンシャルアップも課題になります。ですので、2006年度の前半は、じっくりとスタッフのポテンシャルアップや交流のための「野外学習会」などを実施し、その中で次年度の実施内容を考えていきたいと思っています。

## 【楽しく意義ある活動をやりたいね】

現在(2006年2月)、次年度の活動内容を検討中ですので、確定的なことは書けませんが、およそ次に紹介するようなことを実施したいと考えています。

2006年度後半は、2005年度に引き続き、一般市民を対象とした連続イベントを、回数を絞って実施したいと思っています。その一方、企業に勤める若いお父さんたちの社会的な影響は大きく、この層を対象にした連続イベントも実施したいと考えています。

この一年の間に、京都グリーン購入ネットワーク<sup>※1</sup>の活動をはじめ、環境市民は企業関係者との交流の機会を広めました。京エコロジーセンターにも企業との交流チャンネルがあります。これらのチャンネルと、この一年の活動実績を活かして、一年前にはできなかった活動ができる可能性が生まれています。

今年度講師をしてくれた専門家らの協力を得つつ、年々少しずつ、より社会的意義があり、楽しい活動に高めていきたいと考えています。

※1 2004年に設立。京都府内にグリーン購入(環境を配慮した購入)を普及し、市場のグリーン化をめざす、企業、自治体、市民団体からなるネットワーク組織。環境市民が事務局を担っている。

## 2006年度は、市民向けイベント 3~4回(予定)

- ・楽しく、おもしろいことを大切に、子どもたちをめぐる環境問題の深刻さを知る。
- ・環境活動リーダーの素養として、新たな視野・視点を提供する。

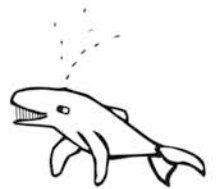
## エコ企業人育成プロジェクト(仮称) 3回程度(予定)

- ・社会的に影響のある活動をめざす。
- ・企業で働く人の環境マインドを高め、事業活動に影響を与える。
- ・企業等の環境研修の一部として位置付けられるものをめざす。



～環境市民の今、そしてこれからの活動をお知らせします～

# とれたて! 環境市民 ← スペシャル!



地球環境市民大学校 市民と環境 NGO の集い

## 「環境 NGO 活動発表会 見たい聞きたい話したい! 環境 NGO ってどんな活動しているの?」を開催

1月21日、地球環境基金主催、環境市民企画・運営で「地球環境市民大学校 市民と環境 NGO の集い」が京都で行われました。この集いの主目的は、地球環境基金から助成金を受ける NGO の活動成果を社会に発信すること、NGO 間および NGO と市民との交流の機会をつくることです。

第一部ではシンポジウム「市民・環境 NGO・企業 持続可能な社会への挑戦」、第二部では同基金の助成を受けた近畿に本部を置く 26 の環境 NGO による活動紹介が分科会形式で行われました。締めくくりとして NGO メンバー、市民が参加する交流会を行いました。

第一部のシンポジウムでは、約 100 人が参加する中、持続可能な社会をつくるために企業と NGO はいかに協働できるのか、そして協働を深めるための課題は何かなどが話し合われました。パネリストは企業側から損保ジャパン CSR・環境推進室長の関正雄さん、富士ゼロックス・端数倶楽部自然環境保護部会リーダーの宮本育昌さん、NGO 側からは人と組織と地球のための国際研究所代表の川北秀人さん、環境市民から枚本育生代表理事、コーディネーターとして理事

の植田和弘さんが参加しました。各パネリストによる協働の取り組み紹介の後ディスカッションに移り、NGO 側からは「我々は企業に対してただ要望や文句をぶつけるだけではなく、目的を共有しつつ実践を通じてシステムの提案まで行う必要がある」といった意見が出された一方、企業側からは「現在企業では、組織全体で NGO を理解する仕組みに欠けている」、「協働自体が目的にならないよう注意すべき」などの指摘が出され、さらに議論が深められました。最後にコーディネーターから、企業と NGO の協働プロセスにおける討議や学習の重要性が指摘されました。

続く第二部は、NGO にとっては普段なかなか触れることができない他団体の取り組みを、市民にとっては NGO の多様な活動を知る貴重な機会となりました。

交流会には約 40 人が参加し、NGO 同士、市民と NGO の情報交流が図られました。今回の集いを通じて、環境 NGO の活動成果の社会への発信、NGO と市民のコミュニケーションをすすめることができました。



地球環境市民大学校 環境 NGO のための組織マネジメント講座

## 「市民力を高めよう! わいわいがやがや 環境活動スキルアップ」を開講

1月28日から29日の2日間、奈良市男女共同参画センター「あすなら」にて、地球環境基金主催、環境市民企画・運営で地球環境市民大学校 環境 NGO のための組織マネジメント講座「市民力を高めよう! わいわいがやがや 市民活動スキルアップ」が開講されました。講座運営にあたり NPO 法人奈良 NPO センターと協力しました。講師は本会理事や活動メンバー、奈良 NPO センターからの 5 人。受講生は 24 人で、学生、NPO/NGO のスタッフ、これから活動を始めたい方など、そのバックグラウンドはさまざまでした。講座の内容は、ぼやきをやる気に変え、「思い」をプロジェクトへと具体化する方法、企画の作り方、会議運営の基本、広報とインターネットの活用法、チラシ作り、会議の進行法などで、受講生は具体的事例を交えた講義とワークショップを通して学びました。

私は将来環太平洋諸島で環境保全の取り組みをしたいので、それを実現するために何から始めればいいのか、ヒントを得たいと思い参加しました。思いから企画をつくる講義

では、自分のポテンシャルやマーケティング分析をし、目的を達成するために今の自分にはどんな資源があり、何が足りないのか、まず何をすべきなのかが見えてきました。

チラシ作りや広報の講義では、多くの人と協働してプロジェクトに取り組むことの重要性がわかりました。また、効果的に会議を進めるテクニックやコツ、進行方法なども大変勉強になりました。司会の台本をつくるワークショップでは、私は発表役に選ばれました。30 人の聴衆を前にあがってしまい、まとまりのない進行を披露してしまいましたが、司会が本当に大切に大変な役割だということがわか



りました。この講座を通して学んだ環境活動の基本スキルを活かし、これからいろんな現場や活動に参加し経験を積んで、いつか自分の思いを企画・実現したいです。

(文/地球環境基金インターン生 村中 梨砂)





## コンピュータ消して、スタート！ みつたまプロジェクト～子ども向け環境教育ウェブサイトを創ろう

一風変わった愛称を持つ「みつたまプロジェクト」の正式名称は、「楽しみながら環境のことを学べる子ども向け環境教育ウェブサイト構築プロジェクト」。

子ども向けの環境教育サイトをつくりたいね、という話は、もう何年も前から電子かわら版チーム(インターネット活用チーム)で出ていたそう。それが、昨年の春ついに現実的に動き出しました。今や子ども向けの環境教育サイトは数多く存在しますが、「環境市民ならでは」にこだわる、電子かわら版チームと環境共育チーム SKIP を中心に、約10人のメンバーが集まって、熱く活動しています。

「でも、子どもにパソコンの使用をすすめるのはよくないんじゃないの?」、そんな疑問も生まれますが、このサイトがめざすのは、子どもをパソコンの虜にするようなものじゃないのだとか。みつたまサイトは、パソコンを単なる道具としてとらえ、サイトを見た子どもがパソコンから離れ、自然の中に出たり街で人にインタビューしたり、現実世界としっかりつながらないと楽しめない仕組みが考えら

れています。コンセプトは、「サイトの中だけで完結しないサイト」「自然や社会、人々とつなぐツールとしてのサイト」。SKIPなどの現場での環境教育プログラムとの連携も考えながらすすめられます。

現在は、こんなことやりたい、あんな機能がほしいと、メンバーが言うわがままに答えるサイトの設計のため、ウェブプログラミングが進行中! 素人が、専門家のアドバイスをいただきながら設計しています。まもなくテストサイトが立ち上がり、2006年度から試運転が始まる予定です。

「知識も技能も不問。そのうち身に付くから、とにかく参加を。新しいものを創るって面白いヨ!」



<http://www.kankyoshimin.org/jp/event/volunteer/mitsutama.html>

(文/ニュースレター編集部 有川 真理子)



### ミーティング&イベントカレンダー

1日(水) 首都コンチーム 「わいわいEco Cup」 午後7:00から 東海 環境市民nagoya cafe 午後1:00から3:00、午後7:00から9:00(P11)	16日(木) 自転車チーム ちやり民
3日(金) ニュースレター編集部 午後6:30から	17日(金) 東海 ぼつとらっくばーてい 午後7:00から9:00(P11)
5日(日) つくる 食べる 知る 考える～地球と人と食べ物のいい関係～第2回午後1:30から4:30(P10)	18日(土) つくる 食べる 知る 考える～地球と人と食べ物のいい関係～第3回午後1:30から4:30(P10)
6日(月) ニュースレター編集部 編集日 午後6:30から SKIP チーム 午後7:00から	19日(日) 長岡京市ゆりかご保育園 エコファイトショー●
7日(火) 電子かわら版チーム 午後7:00から	22日(水) ニュースレター編集部 校正日 午後5:00から
11日(土) あけてビックリ! SKIPたまてばこ会第11回 午前9:30から午後4:30(P10)	25日(土) あけてビックリ! SKIPたまてばこ会 第12回 午後6:00から9:00(P10)
11日(土) 東海 「環境小市民 生涯学習講座」午前10:00から午後2:00(P11)	26日(日) 滋賀 魚道づくり 午前9:00から12:00(P11)
12日(日) 京都自然めぐり 自然を通じて、子どもと遊べる大人になろう 午前10:00から午後5:00(P10)	27日(月) 子ども向け環境教育サイト制作プロジェクト第10回ミーティング
	29日(水) ニュースレター編集部 リニューアルミーティング 午後6:30から8:30(P11)
	30日(木) ニュースレター 発送日 午後1:00から

※グループ/プロジェクト名のみはミーティングです。  
※「●」は京都事務局までお問い合わせ下さい。

3月 '06

### 旬のメモ

あなたの心に季節の窓を。  
旬の話題と暮らし方のヒントを  
お届けします。

(文/ニュースレター編集部  
山形 七日)

● VOL. 9 ●  
ツクシちゃんの正体  
2月半ばからチラホラ姿を見せだす可愛いツクシ。子どもの頃、川の土手や田んぼの畦で、お母さんと一緒に摘んだ思い出がある人もいるのでは? 食用に良いのは5〜10センチ程の若いもので、袴を取り灰汁を抜いて茹で卵とじや和え物、ツクシ飯などにします。食品としては野菜類に分類されますが、実はシダ類の一種トクサ科スギナの繁殖のための胞子茎という器官。頭は胞子を散らす役目を持ちます。ツクシと地下でつながっているスギナは栄養といひ、ツクシが枯れる晩春に出てきて次の年に向けて栄養を蓄えるのです。

### 講演のご案内

全国に講演に出かけています。お近くに来た際にはご参加ください。

- 2日(木) 豊中市「子育てと環境」 ■ 8日(水) 神戸市「NPO協働事業セミナー」
- 11日(土)、18日(土) 明石市「地域コーディネーター」

※ 一般参加はできませんが下記の講座にも講師を派遣しています。詳しくは京都事務局へお問合せください。

- 21日(火) 金沢市「環境NPOの可能性」 □24日(金) 福井市「私たちが始める温暖化防止」
- 26日(日) 水戸市「本物の豊かさを目指すエコ」



# みんなでエコろう! 行事案内



お申し込み  
問い合わせ

NPO 法人環境市民京都事務局

問合せ・申込み

環境市民

<http://www.kankyoshimin.org>

【TEL】 075-211-3521

【FAX】 075-211-3531

【IP電話】 050-3581-7492

【E-mail】 [life@kankyoshimin.org](mailto:life@kankyoshimin.org)

## 「つくる 食べる 知る 考える」 ～地球と人と食べ物のいい関係～

暮らしと環境問題のつながりに気づき、豊かな暮らしの考え方やその実践方法を、日々欠くことのできない「食」を通じて知り、考える3回連続の講座です。

### 第2回 旬の魚のエコ料理と魚の話

旬の魚のエコ料理と魚の話。伝統的な食文化、地域の味を彩ってきた魚。魚を通して暮らしと環境のつながりを考えます。

と き：3月5日(日) 午後1:30から4:30

講 師：力石 幸さん(料理研究家)

定 員：15人

### 第3回 野菜の食べ比べと野菜の話

有機野菜とそうではない野菜を食べ比べてみます。体にも地球にもいい旬の野菜でおいしい料理を作ってみましょう。調理道具のうまい使い方も紹介します。

と き：3月18日(土) 午後1:30から4:30

講 師：細井 さおり(環境市民会員)

定 員：10人

と ころ：京都市北青少年活動センター  
(京都市北区 北区総合庁舎3階)

参加費：各回 学生および環境市民会員1,000円(+材料費) / 一般 1,500円(+材料費)

※材料費は各回500～1,000円程度。

申込み：必要

締 切：各回実施日の2日前までに。

企 画：「だいすき京都 環境市民の遊びかた 暮らしかた」作成チーム

共 催：(財)京都市ユースサービス協会、環境市民

## 京都自然めぐり 自然を通じて、子どもと遊べる大人になろう

野外遊びの専門家、昆虫・植物・鳥類などの専門家、子育てに造詣の深いおもちゃ屋さんらを講師に、京都周辺の自然を活用し、金やエネルギーを使わなくても、子どもたちと遊ぶことのできる大人を養成する講座です。

### 第10回 1年のふりかえり 子どもと遊べる大人になろう

第9回までの講座をふりかえり、参加者同士で遊びの技を披露します。今回初参加の人も大歓迎!

と き：3月12日(日) 午前10:00から午後5:00

と ころ：京都御苑(京都市上京区)蛤御門付近  
地下鉄烏丸線丸太町駅または今出川駅より徒歩10分

講 師：世良 佑樹さん(環境共育フリーランス)

対 象：大人(高校生以上) 野外の遊びわざを修得したい人なら、子どものいるいないを問いません。

参加費：会員 400円/一般 600円

(いずれも保険代含む。現地までの交通費は含みません)

集合場所：京都御苑 蛤御門

持ち物：筆記用具・雨具

(カイロなど防寒対策は各自お願いします)

服 装：動きやすい服装でお願いします。

定 員：25人

申込み：必要

締 切：開催日の3日前までに。

備 考：小雨決行。荒天以外実施。

中止の場合、当日朝に申込み者に連絡します。

企 画：こもれば俱樂部

共 催：環境市民、京エコロジーセンター

※自然の中で一緒に楽しく遊んでみませんか?

こもれば俱樂部では仲間を募集しています。

## あけてビックリ! "SKIPたまたばこ会" 第11回

教育、ひとと向き合う"からだ"とは? ～コミュニケーション力を高めよう2

環境教育(共育)では、自分の想いをきちんと伝えていくことが必要です。しかし、私たちは本当に相手にきちんと向き合って、相手に届く言葉を発しているのでしょうか。体を動かすワークを通じ、より深いコミュニケーションを考えましょう。演出家の竹内敏晴さんの「からだことばのレッスン」を受講したメンバーによる報告会です。

と き：3月11日(土) 午前9:30から午後4:30

と ころ：京都アスニー(京都市生涯学習総合センター)  
第1研修室(2F和室)

進 行：南村 多津恵(環境共育チームSKIPメンバー)

対 象：教育やコミュニケーションに関心のある人

参加費：会員200円/一般400円/一般学生300円

持ち物：水筒

服 装：ゆったりとした動きやすい格好

(ジーンズはできれば避けてください)

定 員：20人(先着順)

申込み：必要

締 切：3月9日(木)

企 画：環境共育チームSKIP

## あけてビックリ! "SKIPたまたばこ会" 第12回

春の恵みをいただきます～食と環境のつながりを考えよう

毎日食べている食事、実は環境と密接な関係があります。今回は「旬」をテーマに楽しく料理し、幸せなひとときを過ごしながら食と環境のつながりについて考えます。旬の食材は、からだにも環境にもお財布にも優しく、まさに一石三鳥。料理が苦手でも大丈夫、食べるのが大好きな人、ぜひご参加ください!

と き：3月25日（土）午後6:00から9:00  
ところ：京エコロジーセンター  
（京都市環境保全活動センター）「エコ厨房」  
進 行：渡邊 麻紀（環境共育チームSKIPメンバー）  
参加費：会員600円/一般800円/一般学生700円（食材費含む）  
持ち物：エプロン、タオル、筆記用具、おすすめのごは  
んのお供（任意）  
定 員：10人（先着順）  
申込み：必要  
締 切：3月20日（月）  
企 画：環境共育チームSKIP

## ニュースレター編集部リニューアルミーティング 第2弾

ニュースレター編集部では、もっとおもしろく、環境  
NGO ならではの視点を伝えるため、編集体制のリニューア  
ルミーティングを行います。今回は第2弾！ 新体制に向  
けて具体的な対策を考えていきます。普段からニュースレ  
ターを読んでくださるみなさんの声もぜひ響かせていた  
らと思います。ご参加お待ちしております！

と き：3月29日（水） 午後 6:30 から 8:30  
ところ：環境市民事務局  
参加費：無料  
申込み：必要  
備 考：はじめての方には午後 6:00 から簡単な説明会  
を行ないます。  
企 画：みどりのニュースレター編集部

## あなたの発信がエコロジカルな社会をつくる！

### 環境市民特派員募集！

エコロジカルな社会をつくっていくためには、市民によ  
る発信が大切です。そこで、環境市民では環境に関するこ  
とや地域のエコな話題などについて取材する「環境市民特  
派員」を募集しています。

具体的には地域のエコな話題や環境市民の行事を取材発  
信していただきます。現在もすでに何人かの特派員がニュ  
ースレターやウェブサイトなどで活躍中です。あなたも特派  
員になって、一緒に環境の話題を伝えていきませんか。多  
数の応募をお待ちしています！

応募資格：環境市民会員  
応募方法：お名前、E-mailアドレス、電話・FAX番号、住  
所（郵便番号）、応募理由を明記の上、「環境市民特派  
員希望」と明記して環境市民京都事務局までFAXかメー  
ルにてご連絡ください。

### 問合せ・申込み

環境市民・滋賀

【TEL】 077-522-5837  
【E-mail】 cefshiga@kankyoshimin.org

## 魚道づくり

滋賀県に注ぐ川のほとんどには落差工があり、川底に段  
差をつけています。これは洪水の際の勢いを落とすための

ものですが、魚が遡る時の障害になっています。魚道を設  
置すればよいのですが行政には予算の制限があり、すぐ  
には設置できません。そこで市民が木で大きな枠をつくり、  
魚道とすることにしました。26日は木の枠作りをし、行政  
の許可が下りれば魚道を設置します。

と き：3月26日（日）午前9:00から午後12:00  
ところ：大津市喜撰川  
参加費：無料  
集合場所：JR大津駅前の裁判所前に午前9:00に集合して  
車で現場へ行きます。  
持ち物：タオル、着替え  
服 装：濡れてもよい服装、長靴  
申込み：必要  
備 考：小雨決行  
※作業終了後、環境市民・滋賀の運営ミーティングを行います。

### 問合せ・申込み

環境市民・東海

【TEL】 052-521-0095  
【IP電話】 050-3604-6182  
【E-mail】 tokai@kankyoshimin.org

<http://www.kankyoshimin.org/tokai>

## 環境市民 nagoya cafe

運営に関するミーティングを行います。昼下がりにお茶  
しながら、楽しいひとときを過ごしませんか？ 今月は国内  
産の大豆を使った豆腐づくり体験講座を行います。

と き：3月1日（水）午後1:00から3:00、午後7:00から9:00  
ところ：環境市民・東海 事務局  
参加費：無料  
申込み：豆腐づくり希望の場合は必要。  
昼・夜いずれかを指定してください。

## 環境小市民 生涯楽習講座

環境と衣食住をマジメに楽しく楽習する講座です。ど  
なたでも参加できます。地産地消していますか？

と き：3月11日（土）午前10:00から午後2:00  
ところ：名古屋市熱田区内  
参加費：500円  
集合場所：名鉄神宮前駅  
定 員：10人（先着順）  
申込み：必要  
備 考：熱田の森見学後、きしめんを堪能して東海道  
五十三次の七里の渡しへ。

## ぽっとらっくばーてい

週末にマイカップと一品を持ち寄り、楽しいひと時を過  
ごします。会員の方はぜひ友だち（まだ会員でない方）と、  
一緒にご参加ください。

と き：3月17日（金）午後7:00から9:00  
ところ：環境市民・東海 事務局  
参加費：無料  
申込み：必要

# 地球のなかま

地球に暮らす生き物との出会い  
センスオブワンダーで心豊かに

センスオブワンダー...

アメリカの作家であり、海洋生物学者でもあったレイチェル・カーソンが、著書「センス・オブ・ワンダー」の中で伝えた自然を感じる感性

## 第9回 コウノトリとともに暮らすまちづくり(豊岡の挑戦) 前編 ヨーロッパのコウノトリ、日本のコウノトリ

文/ ニュースレター編集部 千葉 有紀子 イラスト/ SKIP チーム 川島 奈美

ハンガリー、バラトン湖近くの村にて、  
Matis Milkos 氏が撮影。2005年7月



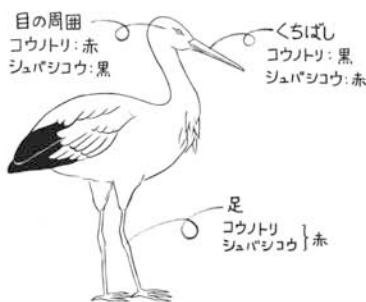
ヨーロッパで、現在も80万羽以上が生息している。このあと出てくる日本のコウノトリとこのヨーロッパのコウノトリは、どちらもコウノトリの一種であるのだけれど、これ以後この文の中では、ヨーロッパのコウ

●ヨーロッパのコウノトリ(シュバシコウ)との出会い  
「ワッ」突然、車の前面が白く覆われたかと思っただけ。車の上すれすれに低く飛ぶ、車と同じ位の幅もある大きな白い鳥の腹が見える。そして、すぐ目の前にある電柱の上の巣に降り立った。まるで、私を歓迎してくれているように思えた。運転席の友人が私にウインクする。これが私とコウノトリとの出会い、一九九六年の夏ハンガリーでのことである。  
「コウノトリ見たい？」と聞かれ、一も二もなくなぞいた私に見せようと、コウノトリがたくさんいる村に連れて行ってくれたのだ。落ち着いて周りを見回してみると、巣がいっぱいあった。ハンガリーには同じような場所があちこちにあるという。今も私はハンガリーやルーマニア、ポーランドといった旧東欧圏の国々に魅せられっぱなしで、休暇をやりくりしては出かけて行くのだけれど、その国々はまさにコウノトリの繁殖地なのだ。だから、その出会いより前にもコウノトリとのニアミスは結構あったはずで、あとから考えればあの鳥がそうだったのかと思ひ出すこともあった。その後にも、大雨で崩れた巣や遠くに見える姿に思いを募らせることになるのである。このコウノトリは日本ではシュバシコウと呼ばれている。アフリカと

ノトリをシュバシコウと統一して呼ぶことにする。

### ●日本のコウノトリ

二〇〇四年のある日、京都の亀岡にコウノトリがやってきたと聞いて、ワクワクしながら見に行った。でも、シュバシコウとなんか違うかなり近い間柄ではあるが、別の種になると聞いて、合点がいった。日本のコウノトリは嘴が黒く、目の周りに歌舞伎役者のように赤い隈取りがある。シュバシコウの嘴は赤く(赤い嘴のコウノトリでシュバシコウという名がついた)、隈取りは黒。だから日本のコウノトリの方が顔がきつく思えてしまう。大きさも少し大きい。羽を広げると二メートル以上、身長も一メートル程もある、かなり大型の鳥なのだ。現在日本にいるコウノトリは、かつて中国、ロシア、韓国、日本などで生息していたが、そ



これらの地域の環境悪化により生息数はほとんど減っていき、現在は二千羽から二千五百羽程度とみられる。日本においては、昔は留鳥(渡りをしないでずっといる鳥)もしくは渡り鳥(毎年決まった時期に渡ってくる鳥)で、たくさんいたのであるが、一九七〇年代に野生個体は絶滅し、現在は迷鳥(たまたまやってきた鳥)という状態になってしまった。

### ●コウノトリは赤ちゃんを運ぶの？

よく、コウノトリは赤ちゃんを運ぶ鳥というイメージがあるが、これはヨーロッパのシュバ

シコウのイメージからきている。シュバシコウは春先にアフリカからヨーロッパに渡ってきて繁殖し、かいがいしくヒナを育てる。よく民家にも巣を作る。人に近いところに住み、間近で雛を育てる様子が見られるから、人間の赤ちゃんも運んできそうに思えたのであろう。実際ヨーロッパには題材にした絵本も多い。日本のコウノトリは民家に巣を作らない、それは家の構造の違いによるところが大きいであろう。日本では、見晴らしのいい松のような木に、大きな(一メートル以上のこともある)巣をつくる。ちなみに、ロシアでもコウノトリは民家に巣を作らないそうである。となると、シュバシコウほど人慣れしていないということも言える。

ヨーロッパのシュバシコウは群れで行動することも多く、繁殖するときは近い場所に巣をかけるのに対し、日本のコウノトリはどちらかといえば単独性が強く、巣の間隔もはなれ、ペアになるときも相性が非常に重要という、神経質な鳥なのである。

### ●円山川にコウノトリが舞う日を夢見て

円山川流域の兵庫県豊岡市には、その昔、たくさんコウノトリがいた。昭和30年代(一九六〇年以前か?)の写真を見ると、学校に行く子ども達を見送るように田んぼの縁に立っているコウノトリがいる。豊岡市では、兵庫県豊岡市、文化庁による保護増殖事業が行われてきた。一九六五年に一ペアを捕獲して、コウノトリ保護増殖センターで飼育し繁殖を試みた。産卵はしたが、孵化しなかった。この年から、コウノトリの野生復帰をめざしての長い道のりは始まったのである。(次号で豊岡での具体的な取り組みについて紹介します)

協力/西台律子・伊藤浩樹・濱和宏

取材協力/兵庫県立コウノトリの郷公園・豊岡市立コウノトリ文化館・コウノトリ市民研究所・神戸市立王子動物園



1600メートルのツェルマットでもなかなか暗くならない。時々まどろみながら8時からの夕食までマッターホルンと村の風景を眺め続けた。

このような時間が過ごせるのも、ツェルマットの村は自動車の乗り入れ禁止がされているから。緊急車を除いてガソリン・ディーゼル車は禁止されている。代替として小型の電気自動車が走っているがタクシーやホテル等の営業用で、これもマイカーは禁止。観光用に馬車もある。観光客も全て登山鉄道でツェルマットを訪れる。目的は環境保全とともに観光資源の保全。観光バスやマイカー観光をシャットアウトすることで、日帰り観光がもたらす喧騒、排気ガス、ごみの大量発生を未然に防ぐことに成功し、滞在型の質の高い持続可能な観光地になっている。

駅前から教会に通じる通りはレストラン、ショップ、ホテルが並ぶ村一番のにぎやかさだが、クルマが走らないのでどこかのんびりとしている。夕方、放牧から帰ってくるヤギの群れとそれを追う牧童の姿が、この通りで見られることが観光客をよるこぼせる。スイスにはこのツェルマットのようにクルマのない観光地が他にもあり、GASTという協会をつくっている<sup>注1</sup>。

滞在するホテルはスイスの伝統的な建築様式であるシャーレー風の木造建築、しかもマッターホルンが部屋のペランダから正面に眺められることから選んだ。その選択は期待以上の光景を提供してくれた。深夜ベランダに出ると、マッ

ターホルンの斜めに満月がかり、その月明かりがマッターホルンを青く照らし出している。この神々しさはどのよう

に例えればいいのか、言葉が見つからない。そして黎明、漆黒の空がやや青み、やがて紫がかり、その後マッターホルンの頂上から千メートルほどの岩肌が真っ赤になった。それはまさに刀鍛冶が叩いている灼けた鉄の色であった。岩肌の赤はすぐに色鮮やかな黄色となり、やがて街は朝を迎えた。

逆さマッターホルンが見えるとして有名なリッフェル湖よりも、眺めの良い湖があるとホテルの人に聞いてトレッキングに出かけた。ツェルマットから地下道を行くケーブルカーでスネガへ、ここから山道を1時間ほど歩いてそのシュテリ湖に着く。トレッキングで訪れる人が多いリッフェル湖よりも確かに人は少ない<sup>注2</sup>。

それよりも湖面に映るマッターホルンの鮮やかさが素晴らしい。湖岸の岩にすわり、本物のマッターホルンと逆さマッターホルンそして黒味さえ帯びた快晴の

碧空、湖岸の高山植物の緑を眺め、思いきり深呼吸をする。少しでも風があると湖面にさざ波が立ち逆さマッターホルンは消えてしまうが、この日は全く風がなくこのころゆくまで絶景を楽しみ、岩にもたれて昼寝をしてしまう。

シュテリ湖から尾根沿いのトレッキング路を1時間、スイスで最も高い土地にあるフィンデルンの村に着く。この村の小さな教会越しにみるマッターホルンの景色は絵はがきやパンフレットによく使われているほどの景色だ。村にあるレストランに入り、遅い昼食を摂る。このレストランからもマッターホルンを遮るものもなく眺められる。このような素晴らしい自然がある星に感謝したくて、ワインをとりマッターホルンにむけて乾杯。

(注1) GAST スイス自動車乗り入れ禁止観光協会 2000年現在9町村が加盟。

(注2) シュテリ湖 84年に私が最初に訪れたころよりも、最近ではトレッキングでかなりの人が訪れるようになったが、静かな雰囲気は壊されていない。

一度は自分の眼で見たいと願っていた風景のひとつが今、目の前

にある。マッターホルン、深い碧空(あおぞら)を背景に屹立しているその姿は、自然の創造力の大きさと美しさを見事に表している。標高3000メートルに立って、まだ仰ぎ見るほどの高さ、いくつものシャープな線によって構成された造形、ねずみ色の岩壁と雪の白だけで描かれる山肌の模様。このような大自然のもとでは、人はみな厳肅かつ素直な気持ちになつてしまふのであろうか。

麓にあるツェルマットの村に降りて、小さなホテルの庭にあるチェアーに座り、教会の尖塔越しにマッターホルンの姿を眺める。飽きの来ない風景とはこのようなことをいうのであろう。夏至が過ぎたばかりなので、谷あいにある標高

## 第五回 地球の造形

文・写真／環境市民代表理事 枚本育生

連載

# 青き星 碧い風

# みんな集まれ！ わいわいわ ひろば

3月のテーマ：

## 子どもの遊びと環境

今日は子どもの頃おもいつき遊んだ思い出、最近の子どもの遊び環境について思うことなどについてご意見をいただきました。

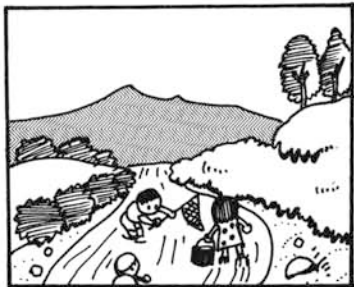
あなたと  
つくる  
ページです

### 子どもが安全に遊べる場所を

私が住んでいたマンションの横に大学が放ったらかしにしていた広い敷地があり、木や雑草が伸び放題になっていました。マンションが2軒建つくらいの広さでしたが子どもには森ほどの神秘的な世界！ 木登り・野球・雑草遊び・ママゴトなど何でもできました。子ども時代に広い空き地がそばにあったと思います。

童話について前から不思議に思っていることがあります。子どもが読むと主人公と一緒に冒険しているようにワクワクしますが、書いているのは大人なんですよ。大人なのになぜあんなに子どもが読んでひきこまれるような楽しい世界を書けるのでしょうか？ TVゲームの悪影響や遊び場がないことなどの問題が指摘されますが、子どもというのは放ったらかしにしていれば自然に創造性を発揮する力があると思います。大人は子どもが安全に遊べる場所を確保してやれば良いと思います。

(P.N. なのりん)



イラスト/山形 七日

### いっしょに遊ぶ人がいることが大切

小学校までは、よく、近くにわき水のでる湖があって、そこでずっと遊んでいました。めだかやザリガニ、たなご、沼えびなどたくさん生き物がいて、その頃は意識していませんでしたが、その後、自然を大切に思う気持ちを養ってくれていたような気がします。めだかはとくに好きで、たまごの中でくるくると動く目だまを飽きもせず、ずーっとながめてました。最近の子はゲームで遊んでばかり、という声も聞きますが、そうばかりでもないかなと思います。

ゲーム遊びをしていた甥っ子のそばで、チラシの裏に絵を書いていたから、よってきて、お絵描きをしたり、飛行機をつくったり、やぶいたりして半日遊びました。特別なおもちゃや場があるわけじゃなくて、遊ぶ人がいることが大切なかな、と思います。(P.N. はちまき)

### 子どものころは冒険さっこ

近所にあった植木屋さんの、誰もいない広～い敷地内に忍び込み、友だちと冒険さっこをよくやりました。もし見つかったら怒られたりする。最近ではぶっそうな事件が多く、子どもが自由に遊べる空間がなくなってしまって悲しいと思います。子どもの成長には、大人の目がないところである、ちょっと危ない(?) 遊びなんかも必要だと思うのですけれど……。 (P.N. ももんが)

### お便りコーナー

みどりのニュースレターへのご意見、ご感想を随時掲載します。



1月号ニュースレターの特集「安全でおいしい食事を次の世代へ」、興味深く読ませていただきました。私は熊本で農業をしています。この辺はあたたかいので、冬はいろんな種類の野菜ができるのですが、夏は暑すぎてピーマン、ニガウリ、ツルムラサキ、モロヘイヤなどの、好き嫌いに個人差の大きい野菜しか穫れません。おまけにたくさん発生する虫を捕るのも大変だし、虫喰いで野菜がボロボロになって出荷できないものもたくさん出て……。苦勞して出荷しているのに、お客さんには「うちの献立に合わない」と悲しいことを言われることもあります。

虫はある程度捕るものの、私としてはできるだけ共生したいという思いもあるので、あんまり殺すのもなあ～と思いつつ、胸を痛めています。お客さんの立場では夏でもキャベツとかブロッコリーなどの食べやすい野菜を食べたいだろうな、というの理解できます。でも、うち(無農薬・露地栽培)でできる野菜は限られていて、夏に一般ウケする野菜をつくることは不可能なのです。

「地元でできる野菜を食べるのが環境にもからだにもいいんだよ」ということをわかって欲しいと思いつつも、あまり「押しつけ」になるのもね……とも思います。そこで、そのあたりを「環境」に特別関心を持っていない人にもうま～く伝えられる方法を模索しています。「地域でとれたものを食べる」を意味する「身土不二」とか「四里四方」についての、もっとつっこんだ話を聞かせてもらえるとありがたいです。

(会員/百姓志望 西田陽子)

※西田陽子さんのブログ「じゅっ田んぼプロジェクト」は環境市民ウェブサイト(ボランティアひろば)で読むことができます。

5月号のテーマは、  
「あなたのエコスポット」です。

募集中

寒くもなく暑くもなく、ゴールデンウィークもあるし、新生活の疲れも出てくるし……。忙しい毎日の中でホッとひと息つきたくなるのが5月では？ そこで、有名な観光地から隠れた名所、職場近くの小さな公園、近所の河原、裏の小道などなど、みなさんにとって憩える場所(エコスポット)を募集します。あなたがエコスポットと感じる理由とそこでの過ごし方を教えてね。

読者の皆さんとのコミュニケーションを通じてよりよい紙面づくりをめざしています。ニュースレターへのご意見、ご感想もドシドシお寄せください。ニュースレター編集部まで、右記の方法でお送りください。

➡ ニュースレター編集部まで、メールかFAX、郵送でお送りください

《《 締め切り：3月31日(金) 必着 》》

● E-mail ●  
newsletter@kankyoshimin.org

● FAX ●  
075-211-3531

〒604-0932 京都市中京区寺町通二条下ル 呉波ビル3階  
NPO 法人環境市民 みどりのニュースレター編集部 宛

環境市民のウェブサイトからも投稿できるようになりました!

●環境市民ウェブサイト URL <http://www.kankyoshimin.org>  
《トップページ》→《ボランティアひろば》→《掲示板一覧の「みんな集まれわいわいひろば」》と順にクリックしてください。

# 1 環境市民

— かんきょうしゅしみんぶんのいち —

環境市民の会員を紹介します

## 第9回 岩城敏之さん

日本ではじめて「絵本と木のおもちゃの専門店『ギップズいわきばふ』」を開く。木のおもちゃの普及、講演、本の執筆、絵本の翻訳などに忙しい日々。

聞き手 ニュースレター編集部 千葉有紀子

お 店にくる人はたいがい長居するのもうなずける。小さな木の椅子と机、モヒールの鳴る音が静かに流れるのも心地よい空間、時間が経つのが早い。

### ◆おもちゃに囲まれて

昔のおもちゃはめんこ、おはじき、お手玉など、駄菓子屋で売ようなものだった。おばあさんの代には駄菓子屋、お父さんの代になっておもちゃ屋になった。

「店を継ぐべくマインドコントロールされながら」おもちゃに囲まれて育つ。テレビ番組とタイアップするようなキャラクター玩具が出始めた頃で、新しいおもちゃが出たら、動くかどうか調べるために（その頃はけっこう不良品もあったぞ）「電池を入れて遊んでみる。そしてそーっと返しておく」という子ども時代を送った。

### ◆絵本「フレデリック」との出会い

子どもを連れてのキャンプのボランティアをしていた大学時代、一緒に活動していた女の子が絵本好きで「その子とおしゃべりしたかった」から、図書館にあった絵本を片っ端から読んでいった。そしてレオ・レオーニ著の「フレデリック」と出会った。

イソップ童話の「アリとキリギリス」とは逆。夏、冬に備えて食料を集めているはずみ達。その中でフレデリックだけはぼけーっとしている。やがて冬が来て、暖かい部屋と食べ物があっても、何かつまらない。フレデリックに「集めたのどうなっ

た？」と聞くみんな。フレデリックが集めた、おひさまの光や、色や、言葉でおしゃべりを始めると、みんな心がほかほかしてくる。

それから、本格的に絵本の勉強をはじめ「人が人らしく豊かに生きていくためのサービスや物をちゃんと作ってそれが『いい仕事ですね』と評価される世の中が良い世の中ではないか」と思いつける。



おもちゃを通して伝えたいこと、それは、家族が楽しく過ごすこと、子どもが健やかに育つこと。

「遊ぶっていいことは決して悪いことではない。大人にも子どもにも大切なもの」そして本に関係した仕事の傍ら「人のこころを育てる木のおもちゃ」の勉強を始める。

### ◆なんだか世の中おもしろい

それまで木のおもちゃなんて見たこともなかった。ヨーロッパで普通に売られているおもちゃ「ハンマートーイ」は「なんじゃこりゃ」というものだった。木の穴に杭が通っていて、トンカチでトントントントンひたすら叩く。完全に杭が埋まってしまつたら、ひっくり返して叩き直し。「子どもは叩

くのおもしろい。大人にとっては意味がないと思えることでも子どもにとっては大切なことなのかもしれない」と気づく。

子どもは「世の中なんだかおもしろい」と思っている、時には迷惑をかけたたりすることもあるが、その中にも、意味はあるそう。

### ◆日本一あそべるおもちゃ屋さん

店を継ぐことになったとき「いわゆる普通のおもちゃ屋ではなく『木のおもちゃと絵本』の専門店にしたい」と、最初は二階をそのコーナーにあてる。その後だんだん面積は広がり、一階二階ともに木のおもちゃと絵本が占めるようになった。「おもちゃでどんな動きをするのかは、遊んでもらって学ぶしかない」といんな木のおもちゃを輸入し、遊んでもらうようにしていった。

核家族化の進む今、受け継がれてくるべき子どもの育て方がわからず、悩む親も多い。無気力、無感動な子どもが増えてきた。

「人が人らしく豊かに暮らしていくのはどういうことか、おもちゃの背景にある遊びを通して、わかってもらえればいい」と言う岩城さん自身、今も試行錯誤中。子どもが出会うおもちゃ、それを選ぶ親、見守る岩城さんのまなざしはいつも暖かい。

※岩城さんは連続講座「京都自然めぐり子どもと遊べる大人になる」第8回の講師です。

## 編集後記

【編集部】(五十音順)

有川 真理子 飯田 康道 上松 健太郎  
風岡 宗人 加藤 弘典 坂本 皆子  
鈴木 郁 千葉 有紀子 松村 知樹  
安江 晃子 山形 七日  
下司 智子 (デザイン・レイアウト)

### 編集を終えて……

子どもの頃は学ぼうという意志を持たなくても自分が興味を持ったことを、毎日の遊びの中で自然に身につけられたんだな、と感じました。それは今では昔の話だけれど今回のニュースレター作成を通して、子どもの頃のように楽しみながら、環境についてもっと勉強しようと思えました。

(ニュースレター編集部 鈴木 郁)

### 次号予告

みどりの  
ニュースレター  
No.155 2006年  
4月号

現在  
編集中!

特集：春だ！環境市民でボランティアをはじめよう！

何かをはじめたくなる春。改めて環境市民でのボランティア活動の魅力、意義をお伝えします。これから環境ボランティアをはじめめる人も、今活動している人も必読です！！

## 今月のありがとう!

目立たないところでも、  
お力を貸してくださった方々に、  
感謝をこめて。

### 2月号ニュースレターの発送

荒川 萌 / 井上 和彦 / 奥津 登代子  
春日 あゆか / 金川 達也 / 久保 浩  
原 菜央 / 平田 円 / ミネマツ シゲホ  
宮永 健太郎 / 安江 晃子 / 山田 岳

### お菓子などの差入れ

南村 知佐恵 / 藤岡 美栄  
《五十音順・敬称略》

ご協力、ありがとうございました!

ありがとう  
ございました!

新入会員  
\*  
INTER  
VIEW

### 新会員の方々

1月17日から2月13日

安藤 直子 河原 鞠子 野尻 節雄  
今川 克也 北山 節男 橋本 聡  
岩城 敏之 重松 紀雄 藤田 直子  
及川 志保 外村 寅彦 二松 康  
梶岡 美樹子 十倉 和子 増田 武  
加藤 結理子 中村 健司 (五十音順、敬称略)

### 寄付

1月17日から2月13日

伊藤 益義 テポラ・マントル  
井上 和彦 宮永 健太郎  
内田 香奈 (五十音順、敬称略)  
佐々木 厚司  
杢本 育生  
堀 孝弘

### ■中村 健司さん (1月23日入会)

環境市民ではガイドブックの  
販売促進の活動から始めています。  
CSR 連続セミナーで杢本・下村両理事の話を  
聞き、柔軟さとプロ意識を感じ、共に取り組  
みをしていきたいと思いました。市民社会が  
企業と協働することによって持続可能な社会  
をめざしていきたいです。

## 環境市民に入会しよう!

環境市民は、多くのボランティアと会員の皆さんの参加によって支えられています。  
「持続可能で豊かな社会づくり」のために、ぜひ会員になって環境市民の活動を応援してください!

### ■ 会員特典

- 月刊会報誌「みどりのニュースレター」をお届けいたします。
- 行事などの参加費を割引させていただきます。
- 会員専用ブログ「ボランティア広場」への参加ができます。
- 環境に関する様々な情報を得たり、また質問や相談ができます。

### ■ 会費の振込み方法

- (1) 郵便振替の振込用紙に、住所・氏名・電話番号・会員の種類・  
送金内容事項をご記入の上、「年会費+入会金」をご入金ください。  
(※シニア・学生・助成・特別助成会員は入会金不要)
- (2) ご入金を確認後、最新のニュースレターと会員バッジ、入会記念と  
してポストカードをお届けします。

### 会費

種別	年会費	入会金
個人会員	4,000円	1,000円
ペア会員	6,000円	2,000円
シニア・学生会員	3,000円	—
ファミリー会員	8,000円	2,000円
助成会員	10,000円	—
特別助成会員	50,000円	—
終身会員	一括 80,000円	—
営利法人会員*	1口 50,000円	50,000円
非営利法人会員*	1口 10,000円	2,000円

\*年会費は一口以上

~あなたのご協力が環境市民を支えます~

♥ 寄付をする... 住所・氏名・電話番号・寄付金額をご明記の上、下記の振込先へお振り込みください。

会費・寄付のお振込み先 【郵便振替】口座番号：01020-7-76578 加入者名：環境市民

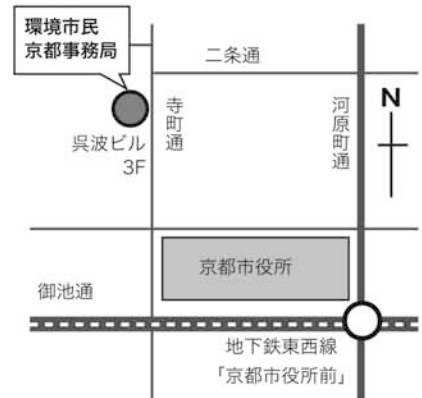
(発行) 特定非営利活動法人 環境市民 (代表) 塚本 瑠一・杢本 育生 (発行人) 堀 孝弘  
【TEL】075-211-3521 【IP 電話】050-3581-7492 【FAX】075-211-3531  
【E-mail】life@kankyoshimin.org 【URL】http://www.kankyoshimin.org  
〒604-0932 京都市中京区寺町通二条下ル吳波ビル3階 (月から金 午前10:00 から午後6:00)

### 環境市民・東海

【TEL&FAX】052-521-0095 【IP 電話】050-3604-6182  
【E-mail】tokai@kankyoshimin.org 【URL】http://www.kankyoshimin.org/tokai/  
〒451-0062 愛知県名古屋市中区花の木1丁目12-12 花の木 AOIビル4階

### 環境市民・滋賀

【TEL】077-522-5837 【E-mail】cefshiga@kankyoshimin.org  
〒520-0046 滋賀県大津市長等2丁目9-12 竺文彦気付



本誌の無断複写・複製・転載を  
禁じます。

「環境市民」  
登録商標 第4809505号

この印刷物は風力発電による自然エネルギーを使用して  
古紙配合率100%再生紙に、大豆油インキで印刷しました。



印刷：(有) 礼書房  
古紙配合率100%再生紙を使用しています



## 環境市民

Citizens Environmental Foundation

21世紀  
地球を、地域を、生活を、  
持続可能な豊かさに

